

「自分らしく生きるための道具箱」には、アスクのこれまでの経験をふまえて、十代の自立に役立つと思われる次のスキルを盛り込んだ。

- 対人関係 ●セルフエスティーム（自己信頼）
- 感情対処 ●自他境界と親密さ
- ピアプレッシャーへの対抗 ●自己決定と情報選択

「自他境界と親密さ」は、通常ライフスキル・プログラムには含まれないが、日本の文化的状況を考慮して加えることにした。「自他境界」は対人関係に踏み出すための土台で、ACがつらい関係パターンから抜け出すために欠かせない概念である。日本では、人間関係の癒着に悩む人が多く、思春期の子どもたちもその例外ではないため、健全な自他境界とは何かについて知らせることが必要だと判断した。

#### 4. アサーティブ・トレーニング

「自分らしく生きるための道具箱」は、アサーティブ・トレーニングのページが8割を占めている。これは、ライフスキルの中では対人関係スキルのトレーニングにあたるが、セルフエスティームや感情対処など他のスキルの育成にも有効である。

アサーティブであることを、英語では名詞形で「アサーティブネス」と呼ぶ。アサーティブネスとは「自分の気持ちや考えをまっすぐに表現すること」で、キーワードは「対等」「率直（そっちょく）」「誠実」「自己責任」である。

実際のアサーティブ・トレーニングは、アサーティブ・トレーナーのリードのもと、グループで行なう。具体的には、テーマに沿って本人が難しいと感じている状況を再現し、行為者（本人）、相手役、観察者に分かれて簡単なロールプレイを行なうのである。ロールプレイのたびに、まずそれぞれがよかったところを言い、次に改善点を述べる。こうして、グループのサポートを受けながら、ロールプレイとフィードバックを何回か繰り返して練習する。

返して練習する。

アサーティブ・トレーニングが対人関係スキルだけでなく、セルフエスティームの形成にも効果をあげるのは、次のような理由からである。

私たちが「私はダメだ。どうせできない」と思いこんでいるときは、行動もそのようになる。まわりの人に流され、自分の考えやしたいことがあっても言い出せない。そうすると周囲からは「あの人はどうせダメだから」と思われる。それが自分に返ってきて、「やっぱり私はダメだ」という思いがますますふくらむ。これを繰り返すうちに、自分がどんどんきらいになり、すっかり自信をなくしてしまう。悪循環モードである。

そこで、行動を変えてみると、どうだろう……？

相手と対等に向き合って、自分の思っていることを率直に言葉にし、「私はできた！」という体験をすると、まわりからも「この人はできる」という評価が返ってくる。すると「私はダメじゃないかもしれない、私はできたんだから」という気持ちになってくる。これを繰り返すことで、「私はちゃんとやっていける」「私もなかなかいいじゃないか」と感じられるようになって、好循環のモードに入ることができる。

アサーティブ・トレーニングでは、陥りがちなコミュニケーションのパターンとして、攻撃型・受身型・作為型の3つをあげている。アスクの講座ではかねてから独自のキャラクターをつくり、攻撃型＝ドッカン、受身型＝オロロ、作為型＝ネッチー、と名づけていた。今回のホームページ制作にあたって、この3人のキャラクターをアニメ化し、ネット上でロールプレイをやらせてはどうか、という企画が出ていた。キャラクターを登場させることで、閲覧者の感情移入が容易になるだろうという予測からだった。実際、主人公となった3人のキャラクターの力は大きく、予想以上の効果があがったと思う。その内容と工夫点を以下にまとめる。

#### 5. 「ドッカン・オロロ・ネッチーのアサーティブ・

## トレーニング」

まわりの人とうまくいかない。なんでわかってくれないの！

まわりに必死で合わせているだけ。こんなの本当の自分じゃない！

……そんな思いをすること、ありませんか？

最初にご紹介するのはアサーティブ・トレーニング。

＜自分らしさを大切にしながら、人とつながっていくための道具＞を身につける練習です。自分を素直に表現したり、人と率直に話し合うには、それなりのトレーニングが必要！

今まで使ったことがない新しい道具も、何度か失敗しながら練習するうちに、自分のものとして自然に使いこなせるようになります。

ドッカン、オロロ、ネッチーの3人組と一緒に、さまざまな場面に挑戦してみてください。

「ドッカン・オロロ・ネッチーのアサーティブ・トレーニング」はこんなふうが始まる。

3人はそれぞれ、コミュニケーションの問題を抱えている。ドッカンはつい攻撃的になって人間関係を壊してしまうし、内気なオロロは自分の気持ちや意見を堂々とと言えない。ネッチーはまわりくどい表現をし、イヤミや皮肉で相手を不快にってしまう。そこで3人はアサーティブ・トレーニングを使って、自分の気持ちや考えをまっすぐに表現するための練習をしていく。まず3人それぞれの困った場面がアニメで展開されるので、次の選択画面で、閲覧者は自分に近いと思われるキャラクターをクリックする。すると、アドバイスに続いてやり直し場面のアニメが登場する。そして、「そうか。こんなふう言うこともできたんだ」と自身のヒントにすることができる。

7場それぞれが前述の構成で展開する。構造はシンプルだが、アニメーターが各所にきめ細かい工夫を施している。

1 ドッカン・オロロ・ネッチーの3人は、性別

や年齢、立場がはっきり現われないように極限まで抽象化したキャラクター・デザインになっている。表情と動作で、コミュニケーション・パターンの特性だけが前面に出るようにした。

- 2 アサーティブネスを象徴するキャラクターは登場させなかった。優等生を出すと、「これが正しいアサーティブネスだ」という押しつけになってしまうためである。三者三様のアサーティブネスがあつていい、という考え方を明確に示したかった。ドッカン・オロロ・ネッチーのやり直しパターンも、別人（優等生）になってしまわないよう、表情や態度にそれぞれの個性を残すよう努力した。
- 3 イメージが固定されると共感をそぐ可能性があるため、相手役の顔は出さなかった。
- 4 閲覧者に解説の文章をきちんと読んでもらうことを目指した。そのため、文字は固定でなく1字ずつ表示されるようにした。しかも実際の会話のようにテンポに長短をつけ、スピードは中・高生のモニターの意見を参考にして飽きのこない早目の速度に設定した。文字表示のスピードに合わせてサウンドエフェクト（効果音）を挿入し、文章に注意をひいた。
- 5 アニメが派手に動くとき文字を読むことに集中できないため、キャラクターの動きは原則として、目のまたたき、口の動き、表情、ちょっとした動作に限定した。
- 6 閲覧者に、自分に近いキャラクターを選ぶという行為をとってもらうことにした。閲覧者は、クリックすることによってストーリー展開に参加でき、傍観者ではなくなる。そして、自分をキャラクターに投影することが容易になる。クリックの瞬間、キャラクターは「え、ほんと、私を選ぶの。困ったな」といった表情をする。これは、キャラクターへの感情移入を促す工夫である。
- 7 やり直し場面の後に、「他のタイプも見る」という選択肢を置いた。

ホームページには以下の7場を盛り込んだ。状況や会話が思春期の子どもたちにとって現実味があり、かつ、大人も共感できるようなもので、しかもアニメになりやすい場面ではなくてはいけないため、幾度となくシナリオの推敲を重ねた。

#### 1場 気持ちをまっすぐ伝える

文化祭の前日なのに、担当分の準備が全然終わらない。でも、他の人たちは気づいてくれない。

#### 2場 ほめられ上手になる

新しく買ったクツを、友人からほめられたけれど……

#### 3場 人に何かを頼む

いつも犬の散歩に行くのは自分。そろそろ試験前だし、これからは妹にも散歩を担当してほしい！

#### 4場 すっきりきっぱりNOを言うコツ

新作ゲームをまだクリアしていないのに、友人が早く貸してとせかしてきた。

#### 5場 批判を上手に受けとめる

バイト先の上司に「仕事が雑だから、もっとていねいにやれ」と言われた。

#### 6場 怒りの取扱説明書

親友だけに打ち明けたはずの大事なことを、他の人が知っていた。

#### 7場 話しあう・交渉する

親が服を買ってきてくれるが趣味が合わない。自分の服は自分で選びたい、と伝えたいのだが……

「ドッカン・オロロ・ネッチーのアサーティブ・トレーニング」は、以下の言葉で締めくくられている。

1場から7場まで、たくさんの場面を見ました。

ドッカン、オロロ、ネッチーも、お疲れさまでした！

……いかがでしたか？

ドッカンたちがアドバイスを受けて再挑戦したのを見て、「こんなふうによればいいの

か！」と思ったかもしれないし、「自分には難しいなあ」と感じる場面もあったかもしれませんが。

いつも教科書どおりにできなくても、それはそれでいいのです。

冷静に話してなんかいられずドッカンしたときだってあるし、ちょっぴりオロロになって甘えてみたいときもあるかもしれない。

今日は思い切りネッチーしてやるぞという気分するときも……。

どんな自分を見せるかは、自分で選んでいいのです。

ただ、怒りを爆発させるドッカンや、気持ちを我慢して飲みこむオロロや、遠まわしに言おうとするネッチーのやり方でなくても、「素直にそのまま伝える方法がある」と知っているのは大切なことです。それがわかっているだけで、周囲の人とつきあうのがずっと楽になるはず。このやり方が、＜自分らしさを大切にしながら、人とつながっていくための道具＞なのです。

あなたの道具箱に入れて、上手に使いこなしてください。

### 6. コラム「私の道具箱に入りたいライフスキル」

メインページを補完するために設けたのが、コラム「私の道具箱に入りたいライフスキル」である。こちらはアニメではなく、じっくり情報を読むエッセイ風のページにし、全体の統一感をはかるため、ドッカン・オロロ・ネッチーをカットとして登場させた。テーマや文章には、中・高生モニターの見解も取り入れた。コラムの内容は以下のとおりである。

#### ●ライフスキルと思春期——今、体と心に起きていること

ガイド1) 思春期のテーマって？

- ガイド2) 自意識過剰はふつうのこと  
ガイド3) みんなはどう思っている？  
ガイド4) むしゃくしゃする!!

●セルフエスティーム（自己信頼）——自分を好きになるスキル

- ヒント1) 自分の親友になろう  
ヒント2) まず自分に聞こう  
ヒント3) 言われっぱなしはやめよう。  
ヒント4) 自分のいいところを探そう

●感情対処——気持ちをキャッチし発信するスキル

- ヒント1) 自分のパターンを知っておこう  
ヒント2) 感情に名前をつけよう  
ヒント3) サインを受け取ろう  
ヒント4) 元気になることリストをつくろう

●自他境界と親密さ——人づきあいの土台となるスキル

- ヒント1) からだの境界をチェックしよう  
ヒント2) 心の境界を見分けよう  
ヒント3) 進入を防ごう  
ヒント4) 相手への侵略をやめよう  
ヒント5) 親密な関係って？

●ピアプレッシャー——仲間の圧力に負けないスキル

- ヒント1) ピアプレッシャーを見分けよう  
ヒント2) はねのけるコツはこれ！  
ヒント3) しつこい相手には、この方法！  
ヒント4) 自分へのフォローを忘れずに

●自己決定と情報——自分で決断するスキル

- ヒント1) 決断の材料を集めよう  
ヒント2) 自分で決めて行動しよう  
ヒント3) 情報のプロになろう

## 7. 技術的な課題への対応

### 1) ネット接続環境・OS・ブラウザ・使用ソフト

前年の「アスク・キッズ」制作時から見ると、ネット接続環境は大きく変わり、ISDNに変わってADSLが飛躍的に伸びた。ブロードバンド化が急激に進んだのである。

アスクのホームページのHOME ([www.ask.or.jp](http://www.ask.or.jp)) に設置したCGIによるアクセス解析から、閲覧者の使用OSは、〔Windows XP〕33.1%、〔98〕26.8%、〔2000〕14.6%、〔ME〕12.8%、〔Macintosh〕6.1%というデータが出ている。使用ブラウザは〔IE6.0〕60.7%、〔IE5.5〕16.3%、〔IE5.0〕15.1%、〔Netscape4.0〕2.1%という結果である。

そこで、今回は標準を〔ADSL/IE6.0〕と考え、〔ISDN/IE5.5 以下あるいは Netscape〕も考慮するというでスタートした。

アニメーターから、今回は、容量が重くなるGIFアニメではなく、軽くて動きがなめらかなFlashアニメを用いたいという提案があった。使用マシンがXPであればFlash6.0は標準でインストールされているし、それ以下のOS使用者でも、最近ではFlashを使ったホームページが増えているためプラグインをダウンロードしている人が多いだろうとの判断で、その線を進めることにした。

Flash6.0で制作したため、5.0で閲覧すると不具合が起きた。IEならそれほど大きな問題はないが、Netscapeではまったく見ることができない。そこで、トップページからマクロメディアのダウンロードサイトにリンクを張り、便宜を図った。

### 2) Flashを使用したことによる問題への対応

当初はすべてのページをFlashで制作する予定で進行していたが、Flashはすべて画像となってしまうため、Googleなどのロボット検索エンジンに無視されてしまうことがわかった。そこで、トップページをHTMLにし、コラムもHTML版を置くことにした。これならば検索エンジンにも

対応できるし、Flash ページを見られない人もコラムだけは閲覧することができ、プリントアウトも容易である。

## 8. モニタリング

思春期のライフスキルのページということで、今回は、中学生を中心に小学校高学年から高校までを対象とした。しかし、レベルは落とさず、大人が見て十分楽しめ、参考になるページを目指した。

そこで、小学生（2人）・中学生（6人）・高校生（2人）・親（2人）・中学教師（1人）にモニターを依頼し、内容や表現、仕様にモニターの意見を随時反映させた。

それぞれが自宅にパソコンを持ち、インターネットとメールができる状態だったので、モニタリングが必要な状況が起きたときに、途中のものを仮ページにアップして、メールや電話で意見を求める形をとった。モニタリングは以下の項目について行なった。

- 1 「ドッカン・オロロ・ネッチーのアサーティブ・トレーニング」の状況設定や会話に不自然なところはないか？ 自分にとって参考になるか？ 解説は理解できるか？
- 2 文字の表示スピードはどのくらいの速さがいいか？
- 3 コラム「私の道具箱に入りたいライフスキル」のテーマは自分のニーズに合っているか？ 表現にわからないところはないか？
- 4 全体の仕様で、こうしたほうがいい、という点はないか？
- 5 完成したものを見て、感想を送ってほしい

モニターの反応は非常によく、小学生から大人までが内容を楽しみ、共感し、自分自身を振り返るきっかけにしてくれた。表現や言葉づかい、仕様の改善案も積極的に出してくれた。

モニターとのやりとりを通して目を見張ったのは、ドッカン・オロロ・ネッチーという3人の

キャラクターの力である。

「ドッカンしちゃった」「私ってネッチー」など、キャラクターを通して自分を振り返る姿が多くのモニターに見られた。また、お互いのコミュニケーションについて、子どもと率直に語りあうチャンスになったという話が親から報告された。キャラクターによって問題が外在化され、お互いを客観的に見られるようになるためだろう。

最終的なモニターの感想を抜粋しておく。

### 【小6女子】

三人のキャラクターと、分かりやすく学べたので、とても楽しかったと思いました。時には爆発してドッカンみたいになってしまったりします。そういうふうになってしまった時、本当はどうすればよかったのか、今までちゃんと考えた事ありませんでした。けれど、この「アサーティブ・トレーニング」では、そういうことを、考えさせてくれました。今までは、ドッカンやオロロやネッチーみたいになってしまっていたので、今度は、自分らしく生きられるようになった、オロロやネッチーやドッカンみたいに変われたら、本当にいいな♪と思ってます！ 努力します！

### 【小6男子】

お父さんってドッカンって思ったけれど、自分もそうだとわかった。この間、学校でドッカンとまったく同じせりふを言ってしまった。自分はまじめにやっているのに、サボっているやつがいて、ドッカンしちゃった。オロロみたいに言えないときもあるけど、やっぱ、けっこうドッカンが多いかも。今度は、別な言い方してみる。でも、ネッチーって、超おかしい。犬に話すとかウケた。

### 【中1女子】

アサーティブ・トレーニングは、可愛い絵と会話でとても分かりやすかったです。

私はドッカンタイプが多かったのですが、「こんなふうに言えばケンカにならなくてすむんだあ」と納得させられるアドバイスがたくさんありました。自分を批判された時の対応などはとても難しいですが、これからは頑張ってみようかな。

気持ちを押しさえしていこうと思いました！

ライフスキルのコラム方は、普段自分が迷ったり悩んだりするコトに対しての答えが書いてあって、すごく良かったです。例えば外見のコトとかで、「人と違うんじゃないか」って思うコトね！これからも思春期の子供達の悩みの解決場所として、頑張っていってください。

#### 【中1男子】

ストーリーに絵や動画などが入っていてわかりやすく、とても勉強になりました。三択で自分のタイプを選び、解決方法をきちんと教えてくれるのが特によかったです。ちなみにぼくはドッカンだったので、今度からはこの方法を元にして解決に努めたいです。

コラムの方も見たのですが、「仲間のプレッシャーに負けないスキル」はさまざまな攻め方が書いてあったけど、これもきちんとした断り方があり、また、ただ断り方を書いただけでなく、相手のことも考える記述があったのでとても参考になりました。これから友人にアルコールや薬物をすすめられても絶対断りたいです。

#### 【中1女子】

内容が難しいことなんだけど、とっても分かりやすく書いてあると思います！絵とかもあって見やすいし、いろんな問題が解決されそうです★

#### 【中1女子】

物事を尖らせないで断る方法などは、とっても役に立ちました。自分は我慢しないで、しかも向こうに嫌な思いをさせない、というのはなかなか自分では考えられなかったもので、参考になりました。犬の散歩の例などは私にもよくあることなので、よかったです。これから例を参考にして感情のコントロールもちゃんとして、自分を表現できたらいいなと思いました。

小学生の弟も後ろから覗いてました。

#### 【中2女子】

「アサーティブ・トレーニング」は、キャラクターが実際のやりとりをしていて、自分と重ねてみたりできるので、とっても分かりやすかったです。わたしは、「ネッチー」タイプが多かったの

ですが、場面ごとにタイプに合わせた正しい対処法も載っているのがよいと思います！改めて、自分の本当の姿が分かったよおな気がします。何事にも自分の意見をハッキリ言いなおかつ、人を傷つけないよおにすることが一番だということが分かりました。

「ライフスキルのコラム」には、わたしの興味があること（自分を好きになるスキル）が載っていたので、本当に勉強になりました！わたしは、どおも自分が好きになれるのですが、これを読んで少しでも変われたらいいなあとと思っています。

#### 【中2男子】

自分が読んでいてギクッとするものが多かったです。

自分は時と場合によって3人をそれぞれ使い分けているみたいですが、やっぱり何事をする前に一呼吸おいて冷静になったら、自分も相手もいい気分になれるということ、自分の気持ちを素直に伝えることが大切だということがわかりました。

#### 【高1女子】

とても今の中高生に合っていると思いました。特に人にはいえず、一人で悩んでいることへの解決策が、このサイトを見ることで見つかる人もいるんじゃないかな？とも思います。……でも私はシミュレーションに出て来た3人とはどれも合いませんでしたf\_^;

断り方では、私はいつも「あー…じゃあ今度ね〜」みたいにはぐらかしてしまうことが多いけれど、違う断り方あるんだなあと思いました。

#### 【高2男子】

そういえば、自分の気持ちを言うなんて、このごろあんまりやっていないなあ、と思った。すごく参考になった。

#### 【中・高生の母親】

アサーティブを第7場まで全部クリア？しました（全タイプ、チェック済み！）。

なかなか興味深かったです。私なんか、非常に中身が「子ども」なので、自分のこととして、身につまされたりしています。

コラムも読ませていただきました。わかりやす

と思います。このサイトは、親や先生や大人にも見てほしいと思いました。反抗期がなく大人になって、あとで親子関係や夫婦関係に問題を抱える人を、身近に見ています。思春期に大人や友だちや世間？とぶつかりあうことは、自分を確立する上で必要なことですが、それにも技術や訓練があるのですね。いろんなことを考えさせられました。

#### 【小学生の母親】

とてもよくできています。子どもとやったら、「お母さん、ドッカンそっくり」と言われました。そういえば、子どもにはすぐ怒っちゃうんですね。職場ではオロロやネッチーもやっていますが、反省、反省。

コラムも読みましたが、私自身に参考になりました。思春期っていうより、小学生から大人まで楽しめるページだと思います。

#### 【中学教師】

私は、ドッカンタイプなので、とても参考になりました。つまり、外では（社会的に）うまくやっている積もりでも、家の中では正に「ドッカン」の地が出ていた、ということをも痛切に思い知らされました。

中学校でこのライフスキルを、私が司会しながらやるとした場合には、

- 1 ドッカン・オロロ・ネッチーの3人のキャラクターを生徒に簡単に紹介し、自己分析をさせる（あなたは、3つのタイプのどれかな？と簡単にメモをさせる）。
- 2 「ドッカン・オロロ・ネッチーのアサーティブ・トレーニング」を見せる。
- 3 自分がこれまでに「ドッカン・オロロ・ネッチーのような失敗をした経験」をメモ用紙に書いて貰う（これは、①の自己分析を補足し、「ウソ」や曖昧さを減らす意味で大切だと考えます）。
- 4 何組かの生徒に「ロールプレイイング」をさせる。ドッカン v s オロロ、オロロ v s ネッチー、ドッカン v s ネッチーなど。ただし、ドッカンの生徒にはオロロの役割を、オロロの生徒にはドッカン or ネッチーを、などと、自分と異なるタイ

プを演じさせるのはどうでしょうか？ ストーリーの設定の仕方では指導者の能力が試されるので厳しいですね。が、やり甲斐があるというものです。これができるようやく、一人前の教師だと思います。

5 最後に感想文を書いて貰う。

急いで直感的に考えた授業計画ですが、ご参考までに。

## 9. まとめと考察

ライフスキルを身につけていくことは、自分の生き方の「道具箱」をいっぱいにしていく作業である。特に思春期は、道具を次々に増やしていく時期。たくさんの道具を手にするには、自分らしく生きていく上での、大きな力となるはずである。このホームページを「自分らしく生きるための道具箱」と名づけたのは、そのためである。

2003年3月18日の公開であったが、約2週間でアクセス数が1000を超え、感想も届き始めた。今後の展開としては、閲覧者からのフィードバックを感想・意見コーナーに掲載するとともに、寄せられた活用例も載せていきたい。

インターネットは万能ではないが、工夫次第で共感を呼ぶ情報発信はできる。教材として授業に用いることもできそうである。また、キャラクターの力を使えば、魅力的な子ども向けのアサーティブ講座も開発できると思っている。

しかし、ライフスキルを子どもに伝えていくときに、一番大切なのは、周囲の大人がモデルを見せることだと思う。不健康な生き方のパターンが世代伝播するように、健康的なライフスキルも次の世代に伝えることができる。ライフスキルとはつまり、大人がまず身につけるべきものだとして強く感じている。

そういう意味で、このホームページが思春期の子どもたちばかりでなくたくさんの大人の目にとまり、ドッカン・オロロ・ネッチーの奮闘に何かを感じ取ってもらえればうれしい。



## 思春期支援の施策と現状および指標にみる今後の課題

### —飲酒・喫煙・薬物乱用を中心に—

国立保健医療科学院 公衆衛生看護部 福島富士子

#### 研究要旨

市町村における思春期支援の現状について、平成 14 年度に策定された市町村母子保健計画書より策定内容および指標の分析傾向の抽出をおこなった。東日本の 338 市町村（北海道 12、青森 20、秋田 20、岩手 22、山形 6、宮城 17、福島 8、茨城 51、栃木 41、群馬 22、新潟 58、富山 9、東京 6、神奈川 12、千葉 34）を対象に分析を実施した。分析内容は、母子保健における思春期の取り組み内容の分析であり、思春期支援の有無とその具体的内容を分類し、今後の具体的な分析のための資料とするとともに、特に思春期の子どもたちを取り巻く飲酒・喫煙・薬物の環境の実態と、これに対する施策の現状および今後の指標などについてさらに具体的な分析を行った。

施策のうちわけとしては 338 市町村のうち、喫煙防止に対する施策を行っている市町村は 144、全体の 42.6%と約半分の自治体で取り組んでおり、ついで薬物乱用防止の 106 市町村、31.4%。飲酒防止教育は 99 市町村、29.3%となった。これらは、飲酒と喫煙、薬物と喫煙、飲酒と喫煙と薬物というように重複して施策が組み込まれている場合が多いが、単独で飲酒などに着目しているものには、飲酒習慣が文化的に因習としてあるために深刻な問題である結果、かなり具体性をおびた施策も見られる。飲酒・喫煙・薬物とすべての項目を挙げている場合は、逆に具体性に欠ける実態もある。また、この組み合わせにより、たとえば、飲酒と喫煙防止の場合は健康問題主体の教育姿勢に対し、喫煙・薬物は非行防止からの働きかけにも力が注がれるなど特性がみられた。喫煙防止は主に健康への弊害を実験などによって啓蒙するなどの具体的な対策が進んでおり、薬物は実態把握がまだ少なく映像や印刷物などの媒体による教育が多い。飲酒については全体的に社会的に寛容に受け止める文化からやや取り組みが遅れている感があり、今後低年齢からの飲酒の嗜癖性などの認知が必要であろう。

積極的な取り組みとしては、子どもたちを酒・煙草・薬物から守るために、家庭や地域でこれらのものを子どもから遠ざける環境作りのための教育や実践がみられ、自動販売機の監視や、子ども前での飲酒・喫煙を避け、分煙・分飲などの運動を進める地域もあった。また子どもたちには、健康への弊害を認知させる教育はもちろん、進められた場合の断り方をロールプレイするなど、興味深い施策もみられた。

#### A. 研究目的

我が国の母子保健は 20 世紀中の取り組みの成果として世界的に高水準に達したものの、まだ多くの課題を残している。厚生労働省では 21 世紀にむけての新しい母子

保健の国民運動として 2001 年より 2010 年にかけて、「健やか親子 21」と銘打ち、これまでの行政主導型から脱却して、地方公共団体をはじめ専門機関や民間団体なども巻き込んだ国民全体としての健康運動

を計画推進することとした。加えて、従来の母子保健事業は、妊婦および就学前の乳幼児を対象としたものが中心であったが、本運動では思春期の保健対策の強化と健康教育の推進がこの主要課題のトップにかかげられていることは特筆すべきである。

思春期の保健対策は、このように新しい取り組みであるため、全国的な規模での調査などのデータが少ない。このため「健やか親子 21」が策定された後、最初となる市町村母子保健計画書 2002 年度版の分析を試みた。これら計画書には従来の取り組みおよび将来の計画案が記載されている。したがって、これら計画書を分析することにより、各市町村の独自性および思春期保健対策への取り組みの現状を把握できることが期待される。

## B. 研究方法

健やか親子 21 に基づき、2002 年度には、各地方自治体に施策の中心がゆだねられてからの最初の母子保健計画書が作成された。

これらの計画書は、国からの強制力をなくし、各自治体の自主性に任せたものであるため、そのフォーマットや課題の設定などまちまちである。特に思春期の対策については、施策そのものが新たに手がけられたケースが多い。

今回は、以下の 13 項目についての記述の有無、およびその具体的内容を調査した。本報告では、特に、思春期における飲酒・喫煙・薬物乱用に対する施策に着目してこの部分に関してはより詳細な分析を行った。

### 1. 分析内容

- 1) 思春期取り組みの有無
- 2) 栄養・食生活
- 3) 身体活動
- 4) 休養・心の健康
- 5) 性教育
- 6) 喫煙
- 7) 飲酒
- 8) 薬物乱用
- 9) 歯の健康
- 10) 生活習慣病
- 11) 環境整備
- 12) その他
- 13) 思春期健康政策に関する具体的指標・目標の有無

このうち、指標・目標についてはさらにその内容をピックアップし、分析した。

特に、今回のテーマである喫煙・飲酒・薬物防止についてはさらに具体的な分析をおこない、今後の量的調査に向けての課題を提起するものとした。

### 2. 研究対象

健やか親子 21 に基づき、厚生労働省は、各市町村に母子保健計画を作成し提出することを勧奨した。結果、全国約 2,800 自治体の内、780 市町村より提出を得た。

今回は、提出された計画書の内、関東以北の 1 都 1 道 13 県 338 市町村(北海道 12、青森 20、秋田 20、岩手 22、山形 6、宮城 17、福島 8、茨城 51、栃木 41、群馬 22、新潟 58、富山 9、東京 6、神奈川 12、千葉の 34) を分析対象とした。

## C. 研究結果

## 1. 思春期施策分析の概要

各項目別の政策実施有無を表1に示す。

今回分析した 338 市町村の中で、思春期についての取り組みをおこなっているのは、269 市町村であり、全体の 78.6%と比較的高い数値を示した。しかしその内容は一部充実した具体的なものもあったが、全体的にはまだ母子保健における思春期支援は概念として認識され始めた段階であり、今後の事業目標として調査段階のものがほとんどである。

取り組み無しと回答した自治体では、従来通り母子保健が就学前の乳幼児とその母親に集約されているものが多く、この部分では充実した施策が行われているものも多い。

最も取り組み割合が多いのは、「休養・心の健康」で、73.7%であった。その内容は、長期欠席、不登校、いじめ等を含み、その対策としてのスクールカウンセラーなどがあげられているが、調査・検討段階あるいは開始したばかりの市町村が多い。また、健全な母性・父性をはぐくむ事を目的とした「赤ちゃんふれあい体験」にも見られるように、従来の母子保健の取り組みの延長上にあり、新たなマンパワーや設備を必要としない身近なものから実施される傾向にある。

次に取り組みが多いのが性教育（51.5%、174 市町村）である。第二性徴などを意識した幼児期からの段階的な性教育の推進はまだ少なく、現状で実施されている主な施策は、医学的な情報提供や支援である。

認知度や講演回数や実施回数の増加、希望しない妊娠の減少などといった、何らかの目標設定がなされている場合が多い。

肥満、痩せ、貧血、高脂血症、コレステロールなどに着目した生活習慣病予防指導（45.9%155 市町村）、歯科衛生指導（34.6%、117 市町村）は、これまでに行われてきた学校保健における健康診断の延長として実施されており、これらは食事などを中心とした栄養教育（33.7%114 市町村）と関連づけられ、家庭を含めての栄養指導・運動指導など具体的な対策が行われている分野である。歯科指導も単に歯への対策だけでなく、フッ素塗布や洗口による予防教育や、歯肉炎など歯周病予防などの将来に向けての歯科衛生指導がすすんでおり、生活習慣病予防との連携も含め一生を通じての健康教育として最も具体的な取り組みが実践されている。

このほか学校保健に関係が深いものとしては視力低下防止や、集団予防接種などの施策も見られる。その他のカテゴリーの多くはこの予防接種に代表される、感染症予防対策である。予防接種については、現在集団接種率を 100%とすることを目標としたものが多いものの、様々な反省から個別予防接種の指導を始めている所もある。いずれも、集団健康診断の記録などが編年で残っており、施策の効果や疾患・異常の推移など、数値での指標のほとんどがこの部分である。

このほか地域に密着した、スポーツ振興やジュニアリーダーなど、運動や遊びを中

心とした健康教育は(19.5%、66市町村)比較的導入しやすい支援として各地で行われている。地域との連携が最も生かされ、地域の特色の最も発揮される部分である。

## 2. 飲酒・喫煙・薬物乱用防止事業

飲酒、喫煙、薬物に関して何らかの活動が行われているのは158市町村(46.7%)であった。個別活動では、喫煙防止教育は全体の(42.6%、144市町村)で何らかの施策が行われている。薬物も(31.4%、106市町村)、並んで飲酒についても、(29.3%、99市町村)で取り組んでおり、思春期問題の重要な一部として認知されていることが分かった。

何らかの活動がある158市町村をベースにすると、酒・煙草・薬物の3つともに取り組んでいるのが47.5%、いずれか2つが25.9%で、残りの26.6%は1項目のみの取り組みである(表2)。その具体例は表4にまとめた。

指標については、158市町村のうち64市町村に記述がある。喫煙防止教育は57市町村89.1%でとりあげ、飲酒防止が34市町村53.1%、薬物が26市町村40.6%となり、飲酒率、喫煙率というように目標値や目標が立てやすい課題であるとも考えられる。また、これまでの実績との比較も可能な分野であると思われる。

何らかの指標がある64市町村をベースにすると、酒・煙草・薬物の3つともに取り組んでいるのが26.6%、いずれか2つが28.2%で、残りの45.2%は1項目のみの指標があった。(表3)

指標の項目は表3に示す。酒・煙草・薬物の指標は飲酒率や喫煙率以外は、防止教

室の回数や実施校数の他は、ほとんど減少・増加・なくすなどの表現で示されており、健やか親子21を参考にした表現にとどまっている。

指標の項目については微妙な表現の違いもあるので(表5)に示した。

喫煙・飲酒・薬物防止のため、思春期の子どもを対象に行われる主な調査として、思春期の意識調査がある。この中で生活習慣や、いじめや不登校など心の問題とともに、喫煙・飲酒などの実態把握のためのアンケートが組み込まれるケースが見られた。このようなアンケートの実施が確認できたのは18市町村で対策実施自治体の11.4%であった。

興味深い試みとして、本人だけでなく、家族の大人の喫煙や飲酒状況をアンケートするものもある。児童本人だけでなく、家族にも健康教育や、分煙への意識付けが拡大しつつある事が分かる。市町村における母子保健政策のなかで、喫煙についてのアンケートは主に妊婦に対して行われる事が多いが、今後は、思春期の禁煙教育は母体の生育期の健康指導として、子ども自身の実態調査や意識調査だけでなく、家庭における環境の実態調査や整備も重要な課題とされつつあるようだ。

以下飲酒、喫煙、薬物乱用防止対策の実態と状況について示す。

### [喫煙防止]

施策の組み合わせは、喫煙・飲酒・薬物とすべてのことについて対策をしているの

が 75 市町村と 1 番多いわけだが、飲酒・喫煙の対策を挙げる市町村はこれらの害について健康教育を主体に事業を展開する場合が多く、煙草と薬物の場合は非行などとの関連も含め思春期性教育とともに心の問題から健康教育を展開する傾向がある。

最も具体的な対策が進んでいるのは喫煙防止教育と思われる。喫煙防止運動はアンケート調査、肺ガンなど煙草が身体に与える影響をプリントやビデオなどの媒体による啓発、講演会・禁煙教室によって推進している。群馬県中之条町のスモーカーライザーの実験や、神奈川県逗子市のようにニコチン吸収紙を使った指導、新潟県妙高村のように小学 4 年生から主流煙・副流煙について健康教育を行うなど、様々な取り組みで正確な知識と意識付けに力を入れている。また、指導の対象年齢も、中学・高校生ばかりでなく、小学 4 年生ぐらいから段階的に教育を行う市町村も見られるようになってきた。新潟県水原町では、喫煙を進められたときにどのように断るかロールプレイングを行うなうとともに、学校での教員の分煙徹底と PTA の協力による家庭内での分煙活動や、屋外の自動販売機台数の監視など、環境づくりにも力を入れている。新潟県では、他にも紫雲寺町や、村松町、田上町など新潟全域で、また群馬県嬭恋村、神奈川県真鶴町のように受動喫煙を含む、禁煙、分煙に対する健康教育への関心の強い地域も見られた。

#### [飲酒]

一方、飲酒については、喫煙調査ととも

に、意識調査の際アンケートによる実態調査が同時になされている場合が多い。教育も、従来型の健康教育の講話やアルコールの害についての授業の他に、パンフレットや映像媒体による教育の他に、茨城県大原市のパッチテストや、山形県余目町の小学生高学年対象に親子アルコールパッチテスト体験、青森県の自動販売機規制、煙草と同じく新潟県水原町のロールプレイングによる、飲酒を勧められたときの断り方など、個性的案取り組みもある。また、新潟県大島村のように飲酒の多い地域であるため未成年者の飲酒を容認する傾向がみられ、低年齢でも飲酒の経験があると思われる。学校での飲酒対策だけでなく、「地域家庭の（うれしくても悲しくても酒、幸も不幸も酒、お茶代わりに一杯等）の習慣を見直す」というように、酒処の地域性から新潟県は全体的に飲酒防止への具体的な対策が示されている。酒を買えない、飲ませない環境作りが子どもを飲酒から守る一番の方法であり、子ども本人以上に大人を対象とした酒による健康問題の教育の徹底こそが必要であると考えられていることがわかる。

#### [薬物]

最後に薬物についてであるが、具体的な対策はまだ進んでいない、シンナーなど薬物への興味に対する意識調査や薬物の害についての正しい知識を教育する場を設定する段階である。薬物は、エイズなどの性感染症とのかかわりもあり、性教育の講話などの機会に行われる事や、ビデオなどの媒体、パンフレットによる教育が行われている事が多いようだが、実際の状況への危機

感に支援体制が対応しきれていない状況にあると考えられる。

#### D. 考察

市町村母子保健計画書を飲酒・喫煙・薬物防止を中心として思春期の施策について分析した結果、思春期の施策はまだ調査および計画段階にあるものがほとんどであることが分かった。

思春期の取り組みに対して、その必要性は実感しつつも、情報化社会における思春期の子どもが置かれた状況の変遷に施策が対応しきれない実情がある。実施内容は、教育講話などの講演会や、冊子、パンフレットによる啓蒙教育が一般的であるが、地方の実態や特殊性によって、集中的に力を注いでいる事業もみられた。思春期教育で均一に行われていたのは、身体健康教育として学校保健の延長としてある、習慣病予防事業や歯科健康事業、感染症予防のための集団予防接種であり、もう一つの柱としてメンタルな部分のサポート活動として「赤ちゃんふれあい体験」がある。これは保健所を中心として従来行われてきた母子保健活動のひとつ乳幼児検診時に共催されるなど、これまでのマンパワーや施設で展開できるものであり、いずれも今までの活動の延長としての部分から思春期事業が手がけられる傾向にあることが分かった。また、新規の事業の目玉としては、スクールカウンセラーの設置があげられているケースが多く見られたが、その実態は、調査や検討段階および、実施されたばかりであり、5年後の結果報告が待たれるところである。

飲酒・喫煙・薬物防止事業についていえば、薬物以外は大人が嗜好品としてたしなむものであり、そのために教育の徹底がしづらい実情がある。たとえば酒造を産業としている地域では、酒による健康問題を実感として理解しつつも、酒の消費を抑制する活動には消極的になりやすく、こうした大人側の都合が子どもへの教育を積極的に推進出来ない状況にある。この点は、酒造が産業である地域に限らず、日本全国の文化として、酒に対する健康への弊害の部分が煙草ほど深刻に認知されていない現状がある。冠婚葬祭とあらゆる行事にかかせない飲酒習慣の日本で、煙草のように家庭内における分飲の習慣は定着しにくいものと考えられる。また、喫煙防止教育が、全体の42.6%に対して、飲酒防止教育の割合が29.3%なのは、社会そのものの問題意識が飲酒に対しては比較的寛容であることと無関係ではないだろう。

思春期において飲酒・喫煙・薬物防止事業は、性教育とともに古株であり多様化がみられる。その具体的取り組みは学校を中心に展開している場合が多い。学校教育では、健康への弊害と、非行の観点からの教育が中心であるが、徐々にその問題が子どもを取り巻く環境に大きく影響を受けていることが明らかになり、子ども自身の問題と平行して、子どもの環境作りとしての大人の嗜好品の棲み分けが必須とされるようになった。

この結果、先進的な活動を進めている市町村では学校などはもちろん、PTA や地域の分煙・禁煙活動によって、子どもを煙草・酒・薬物の害から守ろうとする運動がすす

められつつある。茨城県では県全体で学校における喫煙の全面禁止が定められ、積極的な分煙運動が推進されている。

このように、社会に向けての健康環境整備運動と同時に、子どもに対し徹底した健康教育を推進することが、将来にわたっての飲酒・喫煙・薬物から身を守る力となると考えられる。

全体的な傾向として、事業内容は地方によって取り組みの格差が大きく、基盤となる事業の構築がないまま現在のように独自性を求めることは、取り組みの質の格差をより拡大する結果になるのではないだろうか。思春期政策を認知していく上でも、思春期の課題について最低限の共通の認識を持ち、その上でオリジナリティのある事業が構築されることが望ましい。そのためにも思春期の就学児童の事業においては、情報提供とその検討が必要となり、実践においては、学校や地域とのコミュニケーションの構築と、協力体制の確立が急務である。

また、思春期支援は主に学校と家庭と地域社会との連携によって推進されるが、今後は 10 代の就労者についても支援が必要であると考えられる。職場での 10 代の政策は喫煙状況の把握が 1 件みられるだけであった。特に、社会人として働く 10 代は学校などの支援が得られない分、性教育などをはじめ心身共にきめ細やかな行政の支援が今後は必要であろう。

以上、すでに成熟した事業と異なり、思春期事業はまだ手付かずの分野が多く、実績も成果もまだ示されていない。すこやか親子 2 1 の思春期指標の影響の強さを見る

と、各自治体が、目標の設定自体に苦慮している様子が伺える。すこやか親子 2 1 の思春期指標上における指標の増加傾向や減少あるいは 100%などの単位の設定も今後の追跡調査によって、その影響が各市町村より、どのように提示されるか注目されるところである。

新規事業における目標値や指標の設定も数値で示された項目はほとんど見られず、文章による目標が中心である。今後、統計として思春期の取り組みを把握していく上では、指標を記入するフォーマットやその単位などの設定が統一されていることが望ましい。

思春期事業における最大のサポートは、具体的な取り組み例など参考事例を参照できる情報交換の機会設定であると考えられる。たくさんの事業の中からそれぞれの自治体にあった事業のプライオリティーを決めて選択的に実施できるような基盤づくりが必要であろう。また、結果の分析も簡易でありながら、協力を得やすく、情報処理のしやすいネット上でのアンケートによる追跡調査など、検討の必要があるだろう。

## E. 結論と今後の課題

今回の報告は全国市町村が実施している母子健康保健計画のうち、厚生労働省の勸奨に応じた 780 自治体の約半数、338 自治体をまとめたものである。全自治対数から見ると 1/10 程度にすぎない。しかしながら、全体的傾向として、思春期の政策は極めて初期の段階にあり、今後より具体的評価値を設定した上で追跡調査を実施し、その推移を確認する必要があると思われる。

なお、各市町村が独自のフォーマットを

採用しているため、データ分析が極めて煩雑なものとなった。したがって、今回の調査によって思春期が母子保健において占める比重そのものや、施策の傾向などの概要をこの調査でふまえ、新たに分析によって得られたパターンを整理した後、インターネットによって全国的にアンケートするとともに、意欲的な事業に関してはさらに資

料請求をおこなうなど、再調査による確認が是非とも必要と考えられる。

実際には思春期保健も実施しながら、母子保健の概念に思春期保健が組み込まれていない可能性も考えられ、正確な実態把握のため、きめ細かい追跡調査が必要と思われる。

(表 1) : カテゴリーごとの取り組みの実態

施策内容	市町村数	% (338市町村)
1. 思春期取り組みの有	269	79.6%
2. 栄養・食生活	114	33.7%
3. 身体活動	66	19.5%
4. 休養・心の健康	249	73.7%
5. 性教育	174	51.5%
6. 喫煙	144	42.6%
7. 飲酒	99	29.3%
8. 薬物乱用	106	31.4%
9. 歯の健康	117	34.6%
10. 生活習慣病	155	45.9%
11. 環境整備	34	10.1%
12. その他	121	35.8%
13. 指標がある	172	50.9%

(表2)：飲酒・喫煙・薬物防止、施策別取り組みの割合

(338市町村中、取り組みがみられたのは158市町村46.7%)

項目数	2つ			1つ			
項目	煙草・酒・薬物	煙草・酒	煙草・薬	酒・薬	煙草のみ	酒のみ	薬のみ
比率	47.5%	13.9%	11.4%	0.6%	18.4%	0.6%	7.6%
市町村数	75	22	18	1	29	1	12

(表3)：飲酒・喫煙・薬物防止、指標に見る施策別取り組みの割合

(158市町村のうち指標がみられたのは64市町村40.6%)

項目数	2つ			1つ			
項目	煙草・酒・薬物	煙草・酒	煙草・薬	酒・薬	煙草のみ	酒のみ	薬のみ
比率	27%	22%	5%	2%	3%	6%	8%
市町村数	17	14	3	1	20	4	5

(表4) 市町村別取り組み具体例

都道府県	市町村	煙草具体例	アルコール具体例	薬物具体例
秋田県	横手市	p.33 中学生の健康づくりについてのアンケート・・・煙草を吸ったことがありますか	p.33 中学生の健康づくりについてのアンケート・・・お酒を飲んだことがありますか	p.34 中学生の健康づくりについてのアンケート・・・シンナーに興味がありますか
秋田県	平鹿町	防煙教室・・・中学生を対象に肺がんを主とする疾患の要因となる煙草の害について理解を深め喫煙を防止。		
秋田県	羽後町	アンケート・・・今後特に必要な思春期教育は？ A・・・煙草の害への早期教育		アンケート・・・今後特に必要な思春期教育は？ A・・・薬物について
秋田県	大館市	防煙教育講座の実施。喫煙防止教育の実施校調査予定。10代の喫煙率。現状調査および指標あり。P33	未成年者の飲酒防止教育。飲酒防止教育の実施校調査予定。10代の飲酒率。現状調査および指標あり。P33	薬物防止教育の実施、実施校調査予定。薬物について正確に知っている割合。調査予定および指標あり。P33

岩手県	衣川村	喫煙調査・思春期健康教室、分煙対策事業、禁煙教育実施	思春期健康教室	思春期健康教室
岩手県	平泉町	健康教育実施・・・アンケートによる意識調査 p30 に具体的な結果、データあり。	健康教育実施・・・アンケートによる意識調査 p30 に具体的な結果、データあり。	健康教育実施
宮城県	唐桑町	薬物乱用喫煙防止事業・・・小学校高学年から中学生。年3回の講話。		薬物乱用喫煙防止事業・・・小学校高学年から中学生。年3回の講話。
宮城県	気仙沼市	喫煙教育を行っている小中学校の数の調査データ指標はp37		
宮城県	宮崎町	講演会を年一回。未成年者には販売しない呼びかけをしている。	講演会を年一回。未成年者には販売しない呼びかけをしている。	
山形県	上山町	学校からの養成に備え情報収集および対応	学校からの養成に備え情報収集および対応	学校からの養成に備え情報収集および対応
山形県	余町	地域ぐるみでの防煙にとめる。小学校高学年に講演会・広報	小学校高学年に講演会・親子アルコールパッチテスト体験	
山形県	三川町	p39 に両親の喫煙状況についての資料あり		
福島県	保原町	中学2年生へ吸えないことへのアンケートP11P96	中学2年生へ飲めないことへのアンケートP11P96	中学2年生へ薬物について意識調査P12P97
福島県	河東町	十代の飲酒喫煙率が低下するよう対策	十代の飲酒喫煙率が低下するよう対策	
福島県	湯川村	正しい知識を持ち年齢を自覚した行動がとれる	正しい知識を持ち年齢を自覚した行動がとれる	
福島県	常葉町	煙草の害について知っている児童の数を増やす。生活習慣と健康や煙草の		

		害についての教室開催数を増やす。		
福島県	檜枝岐村	P 31 家庭での喫煙の有無についてのアンケート集計あり		
岩手県	花巻市	p 72 喫煙調査あり。青年期に煙草の健康に及ぼす影響を正しく認識させる	p 69 飲酒の調査あり。青年期に飲酒に対する正しい知識をもつよう教育	
岩手県	遠野市	学校における健康づくりキャンペーン	学校における健康づくりキャンペーン	学校における健康づくりキャンペーン
岩手県	岩手町	禁煙対策	禁酒対策	
岩手県	松尾村	未成年者に煙草を吸わせない指導	未成年者にアルコールを摂取させない指導	
北海道	石狩市	喫煙についての健康教育の実施と啓蒙活動	飲酒についての健康教育の実施と啓蒙活動	
北海道	帯広町	小学・中学・高校生対象の禁煙教育		
北海道	足寄町	喫煙調査	飲酒調査	
青森県	青森市	未成年者の喫煙を防止するための健康教育・小学生への喫煙防止教育	未成年者の飲酒を防止するための健康教育・自動販売機規正・	
青森県	十和田市	小学校低学年から禁煙教室実施。煙草の害として、胎児への影響も知らせ妊婦も周囲の人も配慮できるように子どもの頃から知識を与える。学校で参観日に禁煙教室実施 p 36 に小・中学生の喫煙実態調査あり。		
青森県	三沢市	喫煙防止教室		薬物乱用防止教室

青森県	平内町	10代の喫煙率を調査 p 4		薬物乱用防止教育をしている中高校の割合については調査中
青森県	鱒ヶ沢町	喫煙防止教育	飲酒防止教育	薬物乱用防止教育
青森県	相馬村	自動販売機で自由に変える環境にある。興味本位出始める。	自動販売機で自由に変える環境にある。	
青森県	藤崎町	赤ちゃんふれあい体験学習のなかに禁煙教育も含む		
青森県	大鱒町	喫煙の害についての意識の有無。中学1年、高校3年へのアンケートによる喫煙状況の把握		
青森県	尾上町	喫煙防止教育、10代喫煙率モニタリング	飲酒防止教育、10代飲酒率モニタリング	薬物防止教育
青森県	浪岡町	小学4年、中学2年生対象禁煙教室。中学3年思春期教育の中で、喫煙が胎児に与える影響について学ぶ。P79 小中学校における喫煙調査あり。		
青森県	中里町	健康への害を学ぶ	健康への害を学ぶ	健康への害を学ぶ
青森県	野辺地町	10代の喫煙率調査		薬物乱用の有害性についての認知度調査。薬物防止教育をおこなっている中学・高校の調査
青森県	七戸町	中学生の喫煙願望調査。赤ちゃんふれあい体験学習時に、妊娠中の喫煙が及ぼす影響について学ぶ。		